

A dark, monochromatic portrait of George Frideric Handel, showing his face and shoulders. He has long, curly hair and is wearing a high-collared garment.

浜松バッハ研究会創立 40 周年
豊橋バッハアンサンブル創立 30 周年 記念演奏会

ヘンデル メサイア

2025 年 1 月 12 日 (日)

アクトシティ浜松 中ホール

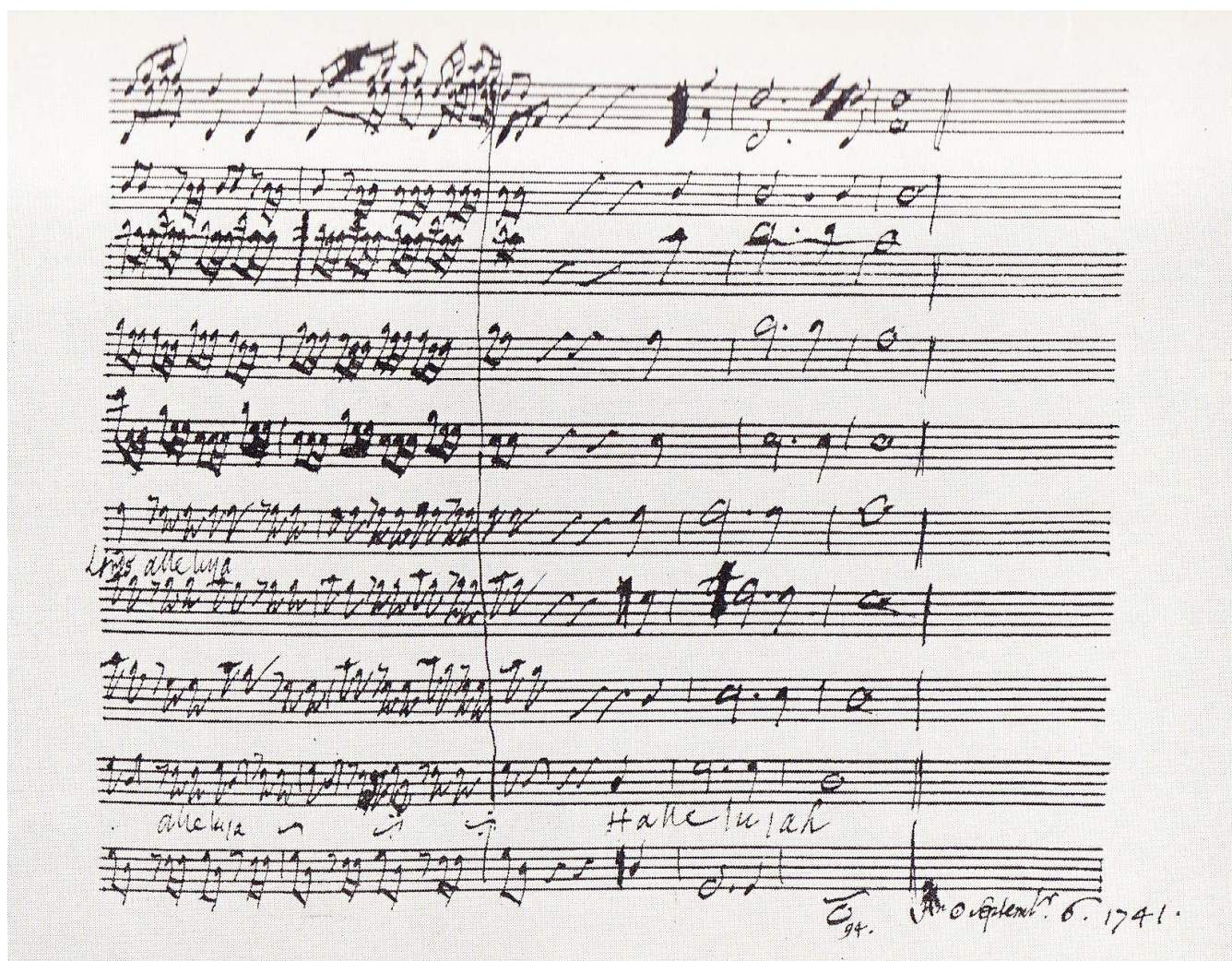
主 催 浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブル

助成元 公益信託チヨタ遠越準一文化振興基金

後 援 静岡県 公益財団法人静岡県文化財団 浜松市 公益財団法人浜松市文化振興財団

豊橋市 公益財団法人豊橋文化振興財団 公益財団法人浜松交響楽団

静岡新聞社・静岡放送 中日新聞東海本社 K-MIX FM Haro!



（『メサイア』第2部最終曲「ハレルヤ」終結部の自筆稿。1741年9月6日の日付が記されている。）

ご 挨拶

浜松バッハ研究会は J.S.バッハ生誕 300 年であった 1985 年に、浜松市および周辺地域のバッハ愛好者によって設立された合唱団と管弦楽団です。1994 年には姉妹団体豊橋バッハアンサンブルも設立されました。これまでバッハの名曲の数々を浜松・豊橋で演奏するほかに、バッハの聖地ライプツィヒの聖トーマス教会でカンタータを演奏するなど国際的な活動も行い、浜松・豊橋でのバッハ演奏 50 周年を記念して 2023 年にはバッハの大曲「ミサ曲口短調」を演奏しました。

今回は浜松バッハ研究会創立 40 周年及び豊橋バッハアンサンブル創立 30 周年を記念して、三度目の「メサイア」を取り上げます。早くからその才能が認められ、国際的に活躍していたヘンデル。豪胆な偉丈夫は作曲・演奏者に留まらず、劇場運営にかかる世俗的な様々な困難と闘い続けました。老境に差し掛かり、経済・肉体・精神的に疲弊していたヘンデルの起死回生となった契機がこの「メサイア」です。55 歳の彼はこの大曲を 24 日間で作曲し、上演されると大成功を収めました。また、1759 年 4 月、このオラトリオを上演した翌日この世を去り（享年 74）彼が耳にした最後の音楽となりました。彼の名声は生前・没後のみならず今日に至るまで色褪せることはありません。

旧・新約聖書の言葉をドラマチックに表現する、ヘンデル唯一無二の宗教音楽にして至高のオラトリオを聴衆の皆さまと享受できましたら幸甚です。

浜 松 バ ッ ハ 研 究 会 代 表 細倉ゆずる

豊橋バッハアンサンブル代表 安井 研一



演奏曲目

G. F. ヘンデル オラトリオ「メサイア(救世主)」

G. F. Handel THE MESSIAH

第 1 部 (Part One) 第 1～21 曲 <救世主出現の預言と降誕>

休 憩 (20 分) Intermission (20 Min.)

第 2 部 (Part Two) 第 22～44 曲 <受難から再臨>

小休止 (Tuning)

第 3 部 (Part Three) 第 45～53 曲 <死者の復活と永遠の生命>

終演予定 17:30

出演者 プロフィール



指揮者 三澤 洋史（みさわ ひろふみ）

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。指揮を山田一雄、ハンス＝マルティン・ラーベンシュタインに師事。

1999年から5年間、「バイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011年には、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座においてスカラ座合唱団の音楽作りを研修。2001年より現在まで合唱指揮者を務めている新国立劇場合唱団を世界のトップレベルにまで鍛え上げた。2017年JASRAC音楽文化賞を受賞。新国立劇場合唱団は、2018年度第31回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門、室内楽合唱部門受賞。愛知祝祭管弦楽団音楽監督として、今日まで、ワーグナー作曲「ローエングリン」、「トリスタンとイゾルデ」、「ニーベルングの指環」全4部作、「パルジファル」を上演。「名古屋音楽ペンクラブ賞」を受賞。作曲家として、ミュージカル「おにころ」「愛はてしなく」「ナディーヌ」、Missa pro Pace（平和のためのミサ）がある。バッハに傾倒し、東京バロック・スコラーズの音楽監督として、沢山の演奏会を指揮。「モテット集」のCDはレコード芸術で準特選に選ばれた。

2024年7月20日、イタリアのアッシジの聖フランシスコ聖堂にて、自作の宗教曲だけで演奏会を開いた。そのためにアッシジ祝祭合唱団を結成。洗礼名は聖フランシスコ。

著書に「オペラ座のお仕事」（早川書房）、「ちょっと お話ししていいですか」（ドン・ボスコ社）がある。京都ヴェルディ協会理事、日本ワーグナー協会評議員。



ソプラノ 飯田 みち代（いいた みちよ）

日本国内では、日生劇場と東京二期会周年記念オペラ「ルル」「メデア」「アイナダマール」、びわ湖ホール周年記念オペラ「死の都」、サントリーホール周年記念オペラ「パン屋大襲撃」など日本を代表する劇場の記念公演の数々に主演し、高い評価を受け、公演の芸術大賞受賞に寄与。批評家たちにより、「音楽の友」誌上で世界のディーヴァベスト100に選ばれ、「陰陽自在な発声で多層の女性像を魅力的に描き出す驚くべき才能」（音楽現代誌）と絶賛された。海外でも演奏の評価が高く、イタリア、アメリカ、ドイツ、オーストリア、フランス、ハンガリーに何度もソリストとして招聘されている。京都大学卒業、愛知県芸術選奨受賞他受賞多数、春日井市広報大使。



メゾソプラノ 三輪 陽子（みわ ようこ）

愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻修了。

第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣対象者国内オーディション最優秀賞と特別賞を受賞。平成20年度新進芸術家海外派遣制度在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演、同劇場の鑑賞教室に出演。宗教曲ではヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「ハ短調ミサ」「レクイエム」、バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、ヴェルディ「レクイエム」などアルトソロとして出演。クロアチア、ウィーン、ベルリン、チェコにて海外公演に出演。二期会会員。



テノール 畑 儀文（はた よしふみ）

大阪音楽大学大学院修了。1991年オランダ・アムステルダムにおいて、バロック歌手として高名なマックス・ファン・エグモント氏のもとで研鑽を積む。以後オランダ各地に於いて毎年受難週にはエヴァンゲリストとして招かれ、ドイツ、オーストリア等ヨーロッパ各地に於けるリサイタルでも大きな反響を呼んでいる。日本コロムビアより「日本のうた」、シューベルト歌曲集「美しき水車小屋の娘」などのCDをリリース。1979～2007年「大阪文化祭本賞」や「ブルーメール音楽賞」、「兵庫県文化賞」など数々の賞を受賞。田原祥一郎、マックス・ファン・エグモント、ヘルマン・クリスティアン・ボルスターの各氏に師事。関西フィルハーモニー合唱団コアマイスター、大阪バッハ合唱団音楽監督、西宮中央合唱団、ゲーテコア、宝塚混声合唱団、カレッジ神戸ヴォーカルアンサンブル、バッハアンサンブル名古屋各指揮者。丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば音楽監督。京都女子大学非常勤講師。



バス 加藤 宏隆（かとう ひろたか）

袋井市出身。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。ジョンズ・ホプキンス大学ピーボディ音楽院修士課程、及びインディアナ大学ジェイコブズ音楽院ディプロマ課程修了。

帰国後は東京二期会や日生劇場などのオペラに多数出演。東京・春・音楽祭ではソリストとしてリカルド・ムーティ氏と共演。2023年12月読売日本交響楽団「第九」ではバスのソロを務めた。またバッハ・コレギウム・ジャパン声楽メンバーとして国内外の演奏会への参加等、宗教音楽の分野での活躍も目立つ。二期会会員。



コンサートマスター 榎山 久美（すぎやま くみ）

浜松市出身。東京芸術大学附属音楽高校、東京芸術大学、同大学院、ウィーン国立音楽大学に学ぶ。ウィーン国立音大ソリストコンクール審査員全員一致の第一位受賞、ウィーン楽友協会大ホールにコンチェルトデビュー。ヴァツラフ・フムル国際コンクール（H・シェリング記念）第二位。第67回日本音楽コンクール「コンクール委員会特別賞」。平成13年「静岡県文化奨励賞」「浜松市ゆかりの芸術家顕彰」受賞。その薫り高く洗練された表現力による演奏活動は、音楽の友、音楽芸術などの音楽誌に常に高い評価を得ており、リリースCDは特選盤、準特選盤、推薦盤となっている。元東京芸術大学附属音楽高校講師。現在浜松学芸高校講師。



トランペット-I 松野 美樹（まつの はるき）

東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。以来、フリーのトランペット奏者として、ソロ、国内外のオーケストラ、室内楽、吹奏楽等で活躍する。特に、バロック音楽の分野において、ピッコロトランペット、バロックトランペットのソリスト、及び客演第一奏者として活躍。国内だけでなく2012年より2016年まで、毎年渡独し、各地の古楽オーケストラとバッハ「ロ短調ミサ」「クリスマス・オラトリオ」「マニフィカト」のソロパート及びトゥッティパート、トレッリの協奏曲などを共演する。現在までにトランペットを北村源三、田中昭両氏に師事、バロックトランペットをフリーデマン・インマー氏に師事。また、小林道夫氏にバロック音楽などの教えるを受ける。現在名古屋芸術大学非常勤講師（古楽器）。



トランペット-II 池田 英三子（いけだ えみこ）

東京藝術大学卒業、及び東京藝術大学大学院音楽研究科修了。東京文化会館推薦新進音楽家デビューコンサート出演。藝大同声会推薦卒業生演奏会出演。東京国際音楽コンクール室内楽第3部門入選。ナルボンヌ国際金管五重奏コンクール特別賞受賞。東京藝術大学管弦楽研究部、東京藝術大学附属音楽高校非常勤講師などを経て、現在埼玉大学教育学部、尚美ミュージックカレッジ専門学校、東京都立総合芸術高校音楽科各講師。ソロ、室内楽、吹奏楽、オーケストラ、ミュージカル、古楽器など、幅広い演奏活動を行っている。著書に小・中学生の楽器入門「トランペットをふこう」（中央アート出版）がある。トランペットを林昭世、杉木峯夫の両氏に師事。



オルガン 内山 美穂（うちやま みほ）

広島エリザベト音楽大学パイプオルガンコース修士課程修了。ベルギー王立音楽院ブリュッセル校およびオランダ王立音楽院マーストリヒト校ブルミエプリ取得後卒業。ベルギーを代表する作曲家兼オルガニストのF・ペータース氏に師事。1984年ゲント国際オルガンコンクール最高位受賞。1992～1997年イタリアミラノ近郊アレゼのMaria aiuto dei cristiani教会のオルガニストを務める。日本オルガニスト協会会員。カトリック鷺の宮教会オルガニスト。浜松聖星高等学校宗教科非常勤講師。

浜松バッハ研究会・管弦楽団

浜松交響楽団、カペラ・アカデミカ、ソナス・アンサンブル、掛川市民オーケストラなどから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織されている。また、富士山静岡交響楽団やアンサンブル・ムジーク浜松などからも専門家を招聘し、レベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

ヴァイオリン-I :	榎山 久美	木内麻希子	長谷川 悠	前澤 陽	松嶋 朗生
ヴァイオリン-II :	小沢 規子	田邑 利香	東儀 温	疋田 清香	松嶋 多恵
ヴィオラ :	櫻井 彩花	小林 勝	小林はる奈	篠田侑香里	
チェロ :	神農 清志	立川 訓子	西村美菜子		
コントラバス :	田邑 元一				
オーボエ :	大橋 弥生	樽林 淳			
ファゴット :	曾布川利貞	高木 麻衣			
トランペット :	松野 美樹	池田英三子	(バロックトランペットを使用)		
ティンパニ :	今泉 好雅				
オルガン :	内山 美穂				

浜松バッハ研究会・合唱団

バッハ生誕300周年の1985年に結成され、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、ミサ曲口短調などの大作や、クリスマス・オラトリオ、カンタータ、モテットなどを取り上げ、管弦楽団と共に上演している。2000年にドイツ演奏旅行を行い、ライブツィヒの聖トーマス教会等で演奏した。常任指揮者として我が国バッハ演奏の権威である、新国立劇場指揮者の三澤洋史氏を招き、バッハの音楽を深く学びつつその魅力を多くの皆様にお伝えすべく、姉妹団体である豊橋バッハアンサンブルと共に活動を続けている。

常任指揮者：	三澤 洋史	ヴォイストレーナー：	三輪 陽子		
練習指揮者：	座光寺 哲 河野 周平	練習ピアニスト：	宮本いずみ 内山 美穂		
ソプラノ：	金子 恒江 河合 良子 鈴木美佐江 武石美恵子 中村 修子 増井 京子				
	山本八重子 亀山佐夜子 川瀬 綾子 小林 照子 平野真奈美 村上 明子				
	毛利 優子（客）				
アルト：	渥美 法子 荒井 裕子 市川 雅美 伊藤 房子 押尾 恵 金丸 則子				
	木内 淳子 鬼頭 計枝 鈴木 理恵 武田 清美 長谷川明子 細倉ゆずる				
	柴田 智子 森田 啓子				
テノール：	櫻町 俊二 座光寺 哲 西尾 昌巳 伴野 勤 平野 好道 村上 裕二				
バス：	伊藤以知郎 河野 周平 桑野 湧輝 細倉 泰生 寺川 暢 宮 秀雄				

豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理…という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身。毎週豊橋で練習し、三澤先生の練習があるときは、浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に活動している。豊橋でも芸術劇場PLATや教会などで独自の演奏会を開いている。

練習指揮者：	伊津野真一 森下 静子	練習ピアニスト：	高木 克子		
ソプラノ：	伊津野泰子 北原 初代 白井登枝江 浪崎 友美 三宅ゆりの				
アルト：	天井麻喜子 富田 康江 浪崎 加代 馬淵 京子 森下 静子				
テノール：	伊津野真一				
バス：	清原 正高 駒沢 真司 近藤 宏司 富田 充 原口 直樹 安井 研一				



（2023年4月22日 『口短調ミサ曲』演奏会）

演奏会スタッフ

ステージ・マネージャー：	柴原 貞幸 藤田 泰史				
フロア・マネージャー：	内海 直人				
写真・ビデオ撮影：	寺田 憲重 寺田 典子 萩野 潔 萩野 美雪				
録音：	福本 信夫 松田 淳一				
アナウンス：	土川さち子				
フロア・スタッフ：	秋山恵美子 吉井 康子 松井 朱美 門林 映美 長谷川正仁 太箸紀代子				
	早川 美香 木内 寛之 小山 香織 川田 咲度 杉山 友紀 鈴木 早織				

ヘンデルは、奇しくもバッハと同じ1685年に生まれている。バッハが、その生涯にわたってドイツからほとんど足を踏み出さなかったことと対照的に、ヘンデルは若い頃イタリアに渡り、後にロンドンで成功したことでイギリス国籍を取得して、亡くなった後にはウェストミンスター寺院に葬られている。ドイツ人であることに全くこだわらず、国際人として生涯を送った人だ。

一方バッハは、ドイツ国内に留まりつつも時代の流れにはとても敏感で、当時流行していた様々なジャンルの楽譜を入手し、研究して、自分の創作に生かしていたという。その研究していた世界の真っ只中に生きていたのが他ならぬヘンデルなのであるが、彼はむしろその中で様々な軋轢に苦しんでいた。

沢山のオペラを作っていたが、ロンドンの歌劇場内部で繰り広げられる魑魅魍魎な陰謀の世界に疲れ果てて、オペラを一度離れて、オラトリオ「メサイア」の作曲に向かうことで自らの魂の癒やしを得ていた、というエピソードは、あまりにも有名だ。

そのように、“バロック音楽の中核”を生きていたヘンデルの様式感を、バッハを専門に演奏する浜松バッハ研究会があらためて学ぶことは、大きな収穫を伴うことを、私は練習を重ねながら実感している。

それは合唱だけにとどまらず、オーケストラのメンバーにとっても、ヘンデルへのアプローチは、沢山のものをもたらしてくれている。僕は、1980年代に指揮者クリストファー・ホグウッドの「メサイア」のアシスタントをして、彼から数え切れないほどのことを学んだ。

今使っている僕のスコアには、ホグウッドが、彼の手兵であるエンシェント室内管弦楽団で行っていた弓遣いを写させてもらって書き込んであり、いくつかの注意書きも残っている。同時に、ホグウッドのオーケストラ練習の時に、彼が指図したバロック音楽特有の弓の飛ばし方や運び方、圧の掛け方などが脳裏に残っている。

エンシェント室内管弦楽団はオリジナル楽器のオーケストラであるが、僕はバロックの演奏論を習っている内に、

「こうした弓遣いやバロック的なアプローチをすれば、かならずしもオリジナル楽器でなくても、充分バロック的に演奏する事は可能だ」

と思い、それ以来、浜松バッハ研究会だけでなく、東京バロック・スコーラズなど、自分がバッハを演奏する団体では、あえてモダン楽器を使っている。

「メサイア」といえば、すぐハレルヤ・コーラスを思い出す人が多いだろうが、それ以外でも名曲満載で、すでに序曲からワクワクする。第1部では、まず旧約聖書からのイエスに関する様々な予言が描かれ、その後ルカの福音書による降誕の記述、そして彼が一体何をしにこの世に来たかということが描かれている。

第2部では一転して受難の記述。そして復活が来るが。その後、珍しいことに、イエスの教えが世界中に広がっていく過程が描かれ、それに伴う迫害のことにまで触れている。そして、世界の果てまで福音が行き届いた、というところでハレルヤ・コーラスが来る。

第3部は、キリスト者というのは、一体何に希望を持って生きているのか、ということが描かれていて、有名なトランペット付きのバスのアリアでは、終わりの日にトランペットの音と共に我々は眠りから目覚め、永遠の生命が与えられるのだ、と説かれ、終曲では溢れんばかりの光に満ちたアーメンのフーガが高らかに歌われる。

でも堅苦しく考える必要は全然ない。僕は、かつてホグウッドが僕に語ってくれた言葉をよく思い出す。「ヘンデルはね、バッハと違ってとても楽天的な人だったんだ。だからメサイアも楽しんでやらないと意味ないんだ。」

その感覚で捉えると、一般的に演奏されている「メサイア」は、どれも重厚すぎる気がしている。逆に言うと重厚になってしまうから、オリジナル楽器の演奏が台頭してきたのかも知れない。

僕は、僕自身でその後も試行錯誤を繰り返し、その間にホグウッドの影響からも多少距離を置き、僕なりの「メサイア」を構築して今日に至っている。「メサイア」には、バッハの音楽にはない洒落た味わいがあり、軽やかさが際立っている。そこに目を付けた僕は、

「え？こんなメサイア初めて！」

とみなさんが感じられるような、思いっきりおしゃれで爽やかな「メサイア」を皆様にお届けしようと思って楽しみにしている。

曲目解説

MAJORA CANAMUS

And without Controversy,
great is the mystery of Godliness:
God was manifested in the Flesh,
justified by the Spirit,
seen of Angels,
preached among the Gentiles,
believed on in the world,
received up in glory.
In whom
are hid all the Treasures
of Wisdom and Knowledge.

いざ、大いなることを歌おう。
たしかに
信仰の神秘は偉大です。
神は肉体としてこの世に現われ、
聖霊によって義とされ、
天使たちに見守られ、
諸国民の間で宣べ伝えられ、
世界中で信じられ、
そして栄光のうちに天上へと召されました。
この神の中に、
知恵と知識の財宝が秘められています。

上記の文章は、ヘンデル自身が主催した「メサイア」演奏会で、プログラムの表紙に掲載された序文です(対訳-「メサイア」ハンドブック/著：三ヶ尻 正より)。
ここでは、この曲の理解の助けとなる説明をいくつかご紹介しておきます。

歌詞(台本)

チャールズ・ジェネズ(1770-1773)による聖書からの抜粋、旧約聖書からの引用が多いです。

初演

1742年 4月13日(火)、ダブリンにて。

オラトリオ

「メサイア」の音楽は形式的にはオラトリオです。そのオラトリオとはどういうものかということ「おおむね宗教的な題材による大規模な叙事的楽曲で、独唱・合唱・管弦楽を用い、音楽は劇的に作られているが、動作や背景・衣装は使用しない」(新訂標準音楽辞典：音楽之友社)。しかし、「メサイア」は、その台本が聖書の句を殆どそのまま、有機的に組み合わせられているとはいえ、断片的に引用されたものであるため、役柄としての登場人物は一部を除いてほとんど無く、劇としての筋書も明確ではない、オラトリオとしては極めて異色のものと言えます。

メサイア

ヘブル語でメシア、『油を注がれた者』、即ち神によって選ばれた支配者、解放者を指します。「メサイア」は英語式の発音で、この曲では勿論イエスのことですが、曲中イエス(Jesus)の名が出て来るのは第51曲のみです。

作曲家

G.F.ヘンデル ドイツのハレ生まれ。1710年末に渡英、以後オペラ・オラトリオ等声楽分野を中心に活躍しました。一般には「水上の音楽」や「調子の良い鍛冶屋」を含むハープシコード組曲等の器楽曲の方が有名でしょうか。彼が埋葬されたロンドンのウェストミンスター寺院内にある記念碑のヘンデル像(下写真)は、「メサイア」第45曲(第3部序曲)の譜面を携えています。



第1部 Part One

緩一急一緩のフランス風序曲仕立ての第1曲の後は、以下のようになっています。

- 第 2～11 曲 救世主降誕の予言
- 第12～17 曲 救世主降誕の場面
- 第18～21 曲 救世主来臨の意図の説明

No.1 Sinfonia

No.2 Accompgnato-Tenor

Comfort ye, comfort ye my people,
saith your God.
Speak ye comfortably to Jerusalem,
and cry unto her,
that her warfare is accomplish'd
that her iniquity is pardon'd.
The voice of him that crieth in the wilderness:
Prepare ye the way of the Lord,
make straight in the desert
a highway for our God. (Isaiah 40.1-3)

第1曲 シンフォニア

第2曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

「慰めよ。慰めよ。私の民を。」と
あなた方の神は仰せられる。
「エルサレムに優しく語りかけ、
これに呼びかけよ。
その労苦は終り、
その咎は償われたと。」
荒野に呼ばわる者の声がする。
「主の道を整えよ。
荒れ地で、私達の神のために
大路をまっすぐにせよ。」（イザヤ 40.1-3）

*下線部 当時の命令文。ye は古語で2人称複数形の主格および目的格です。

*二重下線部 当時の動詞の3人称単数現在形です。

*波線部 聖書によっては次の行にかかり、「荒野で主の道を整えよ。」となります（参考文献②）。

No.3 Aria-Tenor

Ev'ry valley shall be exalted,
and ev'ry mountain and hill made low,
the crooked straight,
and the rough places plain. (Isaiah 40.4)

第3曲 アリア・テノール

全ての谷は埋め立てられ、
全ての山や丘は低くされる。
起伏のある地はまっすぐに、
険しい地は平野とされる（イザヤ 40.4）

No.4 Chorus

And the glory of the Lord shall be revealed,
and all flesh shall see it together,
for the mouth of the Lord hath spoken it.
(Isaiah 40.5)

第4曲 合唱

そして主の栄光が現われ、
全ての者が共にこれを見る。
主の口がそう語られたからだ。
（イザヤ 40.5）

No.5 Accompgnato-Bass

Thus saith the Lord of hosts:
Yet once, a little while,
and I will shake the heav'ns, and the earth,
the sea, and the dry land,
and I will shake all nations,
and the desire of all nations shall come.
(Haggai 2.6-7)

The Lord, whom ye seek,
shall suddenly come to his temple,
ev'n the messenger of the covenant,
whom ye delight in, behold, he shall come,
saith the Lord of hosts. (Malachi 3.1)

第5曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス

万軍の主はこう仰せられる。
「しばらくしたら、再び
私は天と、地と、
海と、陸とを揺り動かす。
更に私が全ての国々を揺り動かすと、
全ての国々の願いは叶うだろう。」
（ハガイ 2.6-7）
「あなた方がたずね求めている主が、
突然その神殿に来る。
あなた方が望んでいる契約の使者が、
見よ、来られる。」
と万軍の主は仰せられる。（マラキ 3.1）

No.6 Aria-Alto

But who may abide the day of his coming,
and who shall stand when he appeareth?
For he is like a refiner's fire.
(Malachi 3.2)

第6曲 アリア・アルト

しかし誰が彼の来る日に耐えられよう。
誰が彼の現われる時立っていられよう。
彼は精練する者の火のようだからである。
（マラキ 3.2）

No.7 Chorus

And he shall purify the sons of Levi,
that they may offer unto the Lord
an offering in righteousness. (Malachi 3.3)

No.8 Recitativo-Alto

Behold, a virgin shall conceive, and bear a son,
and shall call his name Emmanuel,
'God with us'.
(Isaiah 7.14 or Matthew 1.23)

*下線部 マタイ伝にのみ記述されています。

No.9 Aria-Alto & Chorus

O thou that tellest good tidings to Zion,
get thee up into the high mountain,
O thou that tellest good tidings to Jerusalem,
lift up thy voice with strength,
lift it up, be not afraid,
say unto the cities of Judah: Behold your God!
(Isaiah 40.9)

Arise, shine; for thy light is come,
and the glory of the Lord is risen upon thee.
(Isaiah 60.1)

O thou that tellest good tidings to Zion,
good tidings to Jerusalem,
Arise, say unto the cities of Judah:
Behold your God!
the glory of the Lord is risen upon thee.

*下線部 thouー古語の2人称単数形の主格、thyーthou の所有格、theeーthou の目的格です。
*二重下線部 原形はtell。当時動詞は2人称単数現在形でも変化しました（第32,34,36,43 曲の項参照）。
*波線部 今日では 'don't be afraid' というところです。

No.10 Accompagnato-Bass

For behold, darkness shall cover the earth,
and gross darkness the people:
but the Lord shall arise upon thee,
and his glory shall be seen upon thee.
And the Gentiles shall come to thy light,
and kings to the brightness of thy rising.
(Isaiah 60.2-3)

No.11 Aria-Bass

The people that walked in darkness
have seen a great light:
and they that dwell in the land
of the shadow of death,
upon them hath the light shined. (Isaiah 9.2)

No.12 Chorus

For unto us a child is born,
unto us a Son is given,
and the government shall be upon his shoulder,
and his name shall be called:
Wonderful, Counsellor,
The mighty God, The everlasting Father,
The Prince of Peace! (Isaiah 9.6)

*下線部 聖書では 'Wonderful Counsellor' 「不思議な助言者」となっています。

第7曲 合唱

そしてこの方はレビの子らを清める。
すると彼等は主に義の捧げ物を捧げる者となる。
(マラキ 3.3)

第8曲 レチタティーヴォ・アルト

見よ、処女が身ごもり男の子を生む。
その子はインマヌエルと名付けられる。
「神は私達と共におられる」という意味である。
(イザヤ 7.14 またはマタイ 1.23)

第9曲 アリア・アルトと合唱

シオンに良い知らせを伝える者よ、
高い山に登れ。
エルサレムに良い知らせを伝える者よ、
力の限り声を上げよ。
声を上げよ、恐れるな。
ユダの町々に「見よ、あなた方の神を。」と言え。
(イザヤ 40.9)
起きよ、光を放て。あなたの光が来て、
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。
(イザヤ 60.1)
シオンに良い知らせを伝える者よ、
エルサレムに良い知らせを伝える者よ、
起きよ、ユダの町々に言え、
「見よ、あなた方の神を。」と。
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

第10 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス

見よ、闇が地を覆い、
暗闇が諸国の民を覆っている。
しかしあなたの上には主が輝き、
その栄光があなたの上に現われる。
国々はあなたの光のうちに歩み、
王達はあなたの朝日の輝きに照らされて歩む。
(イザヤ 60.2-3)

第11 曲 アリア・バス

闇の中を歩んでいた民は、
大きな光を見た。
死の陰の地に住んでいた者達の上に
光が照った。(イザヤ 9.2)

第12 曲 合唱

ひとりのみどりごが私達のために生まれる。
ひとりの男の子が私達に与えられる。
主権は彼の肩にあり、
彼の名はこう呼ばれる。
「不思議、助言者、
全能の神、永遠の父、
平和の君」と。(イザヤ 9.6)

No.13 Pifa (Pastral Symphony)

No.14 Recitativo-Soprano

There were shepherds abiding in the field,
keeping watch over their flock by night. (Luke 2.8)

Accompagnato-Soprano

And lo, the angel of the Lord came upon them
and the glory of the Lord
shone round about them
and they were sore afraid. (Luke 2.9)

*下線部 'look' と同意に用いられました。

No.15 Recitativo-Soprano

And the angel said unto them:

Fear not; for behold,

I bring you good tidings of great joy,
which shall be to all people.

For unto you is born this day,
in the city of David, a Saviour,
which is Christ the Lord. (Luke 2.10-11)

*下線部 'Don't fear' と同意です。

No.16 Accompagnato-Soprano

And suddenly there was with the angel
a multitude of the heav'nly host,
praising God, and saying: (Luke 2.13)

No.17 Chorus

Glory to God in the highest,

and peace on earth,

good will towards men.

(Luke 2.14)

*下線部 聖書では'and on earth peace among men with whom He is pleased'「地においては、み心にかなう人々に平和があるように。」となっています。

No.18 Aria-Soprano

Rejoice greatly, o daughter of Zion,
shout, o daughter of Jerusalem,
behold, thy King cometh unto thee:
he is the righteous Saviour,
and he shall speak peace unto the heathen.
(Zechariah 9.9-10)

No.19 Recitativo-Alto

Then shall the eyes of the blind be open'd
and the ears of the deaf unstopped;
then shall the lame man leap as an hart,
and the tongue of the dumb shall sing.
(Isaiah 35.5-6)

No.20 Aria-Alto

He shall feed his flock like a shepherd,
and he shall gather the lambs with his arm;
and carry them in his bosom,
and gently lead those that are with young.
(Isaiah 40.11)

Aria-Soprano

Come unto him, all ye that labour,
come unto him, that are heavy laden,
and he will give you rest.
Take his yoke upon you, and learn of him,
for he is meek and lowly of heart,
and ye shall find rest unto your souls.
(Matthew 11.28-29)

*下線部 聖書ではここはイエスの言葉の一部ですので、全て第1人称「私」となっています。

第13 曲 田園曲

第14 曲 レチタティーヴォ・ソプラノ

羊飼いが野宿で夜番をしながら
羊の群れを見守っていた。(ルカ 2.8)

伴奏付きレチタティーヴォ・ソプラノ

すると見よ、主の使いが彼等のところに来て、
主の栄光が回りを照らしたので、

彼等はひどく恐れた。(ルカ 2.9)

第15 曲 レチタティーヴォ・ソプラノ

すると御使いは彼等に言った。

「恐れるな、見よ。

私は全ての人達にとって

素晴らしい喜びを伝えるからである。

今日ダビデの町で、あなた方のために、

救い主がお生まれになる。

この方が主キリストである。」(ルカ 2.10-11)

第16 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・ソプラノ

するとたちまち、その御使いと一緒に、

多くの天の軍勢が現われて、

神を賛美して言った。(ルカ 2.13)

第17 曲 合唱

いと高き所には神に栄光がありますように。

地には平和が、

人々には神のみ恵みがありますように。

(ルカ 2.14)

第18 曲 アリア・ソプラノ

大いに喜び、シオンの娘よ。

喜び叫べ、エルサレムの娘よ。

見よ、あなた方の王があなたの所に来られる。

この方は正しき救い主で、

異教の民に平和を告げられる。

(ゼカリヤ 9.9-10)

第19 曲 レチタティーヴォ・アルト

その時、目が見えぬ者の目は開かれ、

耳の聞こえぬ者の耳は開けられる。

その時、歩けぬ者は鹿のように飛びはね、

口がきけぬ者の舌は歌う。

(イザヤ 35.5-6)

第20 曲 アリア・アルト

主は羊飼いのようにその群れを飼い、

御腕に子羊を引き寄せ、

懷に抱き、

子を連れるものを優しく導く。

(イザヤ 40.11)

アリア・ソプラノ

全ての疲れた人は彼の所へ来なさい。

重荷を負っている人は彼の所へ来なさい。

彼があなたを休ませてくれる。

あなた方も彼のくびきを負って、彼に学びなさい。

彼は心優しく、へりくだった者だからである。

されば魂は安らぐだろう。

(マタイ 11.28-29)

No.21 Chorus

His yoke is easy, (and) his burthen is light.

(Matthew 11.30)

第21 曲 合唱

彼のくびきは負いやすく、彼の荷は軽い。

(マタイ 11.30)

* 下線部 これも前曲で引用されたイエスの台詞の続きで、聖書では全て第1人称「私の」となっています。

* 二重下線部 burden の古語です。

第2部 Part Two

第1部序曲同様の付点音形からなる第22曲は、歌詞の内容ともども第2部序曲の役割りを果たします。その後は、

第23～31 曲 救世主の受難

第32～36 曲 救世主の復活

第37～44 曲 福音の流布、および神の勝利

となります。第2部終曲は「メサイア」中最も有名な曲で、「ハレルヤ・コーラス」として単独でも上演されます。

No.22 Chorus

Behold the Lamb of God

that taketh away the sin of the world.

(John 1.29)

第22 曲 合唱

見よ、神の小羊。

世の罪を取り除きたまう。

(ヨハネ 1.29)

No.23 Aria-Alto

He was despised and rejected of men,
a man of sorrows, and acquainted with grief:

(Isaiah 53.3)

He gave his back to the smiters,
and his cheeks to them that plucked off the hair,
He hid not his face from shame and spitting.

(Isaiah 50.6)

第23 曲 アリア・アルト

彼はさげすまれ、人々から除け者にされ、
悲しみの人で苦痛を知っていた。

(イザヤ 53.3)

彼は自らの背中を鞭打つ者にまかせ、
自らの頬をひげを抜くものにまかせ、
侮辱やつばきに対しても顔を隠さなかった。

(イザヤ 50.6)

* 下線部 聖書では全て第1人称「私」となっています。

No.24 Chorus

Surely, he hath borne our griefs

and carried our sorrows:

he was wounded for our transgressions,

he was bruised for our iniquities:

the chastisement of our peace was upon him;

(Isaiah 53.4-5)

第24 曲 合唱

まことに、彼は私達の苦痛を負い、

私達の悲しみを担った。

彼は私達の背きの罪のために刺し通され、

私達の咎のために砕かれた。

彼への懲らしめが私達に平安をもたらした。

(イザヤ 53.4-5)

No.25 Chorus

And with his stripes we are healed.

(Isaiah 53.5)

第25 曲 合唱

彼の打ち傷により私達は癒された。

(イザヤ 53.5)

* モーツァルトの「レクイエム」:K626 の中の「キリエ」の主題が、この曲の主題に酷似しています。

No.26 Chorus

All we like sheep have gone astray,

we have turned ev'ry one to his own way;

and the Lord hath laid on him

the iniquity of us all. (Isaiah 53.6)

第26 曲 合唱

私達は皆、羊のようにさまよい、

各々、自分勝手な道に向かって行った。

そして主は私達の全ての咎を彼に負わせた。

(イザヤ 53.6)

No.27 Accompagnato-Tenor

All they that see him, laugh him to scorn;

they shoot out their lips,

and shake their heads, saying, (Psalm 22.7)

第27 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

彼を見る者は皆、彼をあざけり、

彼等は口をとがらせ、

頭を振り、言う。(詩篇 22.7)

* 下線部 聖書では全て第1人称「私」となっています。

No.28 Chorus

**He trusted in God
that he would deliver him,
let him deliver him,
if he delight in him.**

(Psalm 22.8)

第28 曲 合唱

彼は神に身を任せたのだから
神が彼を助ければ良い。
彼が神のお気に入りなら、
神に彼を救い出させよ。
(詩篇 22.8)

No.29 Accompagnato-Tenor

Thy rebuke hath broken his heart;
he is full of heaviness,
he looked for some to have pity on him,
but there was no man,
neither found he any to comfort him.
(Psalm 69.20)

第29 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

そしりが彼の心を打ち砕き、
彼はひどく病んでいる。
彼は同情者を待ち望んだが、
ひとりもいなかった。
慰める者を待ち望んだが見出せなかった。
(詩篇 69.20)

*下線部 聖書では全て第1人称「私」となっています。

No.30 Arioso-Tenor

Behold, and see if there be any sorrow
like unto his sorrow. (Lamentation 1.12)

第30 曲 アリオーソ・テノール

彼にくだされたほどの悲しみが他にあるうか。
(哀歌 1.12)

*下線部 聖書では第1人称「私」となっています。

No.31 Accompagnato-Soprano

He was cut off out of the land of the living:
for the transgression of thy people
was he stricken. (Isaiah 53.8)

第31 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・ソプラノ

彼は生ける者の地から絶たれた。
彼があなたの民の背きの罪により打たれたからだ。
(イザヤ 53.8)

*下線部 聖書では第1人称「私の」となっています。

No.32 Aria-Soprano

But thou didst not leave his soul in hell:
nor didst thou suffer thy Holy One
to see corruption. (Psalm 16.10)

第32 曲 アリア・ソプラノ

しかしあなたは彼の魂を陰府に捨て置かず、
あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはならない。
(詩篇 16.10)

*下線部 聖書では第1人称「私の」となっています。

No.33 Chorus

**Lift up your heads, o ye gates,
and be ye lift up, ye everlasting doors
and the King of glory shall come in.
Who is this King of glory?
The Lord strong and mighty,
the Lord mighty in battle.
Lift up your heads, o ye gates,
and be ye lift up, ye everlasting doors
and the King of glory shall come in.
Who is this King of glory?
The Lord of hosts,
he is the King of glory.**
(Psalm 24.7-10)

第33 曲 合唱

頭を上げよ、門よ、
上がれ、永遠の戸よ、
栄光の王が入って来られる。
栄光の王とは誰か？
強く、力ある主、
戦いに力ある主。
頭を上げよ、門よ、
上がれ、永遠の戸よ、
栄光の王が入って来られる。
栄光の王とは誰か？
万軍の主、
これぞ栄光の王。
(詩篇 24.7-10)

No.34 Recitativo-Tenor

Unto which of the angels said he at any time,
Thou art my Son, this day have I begotten thee?
(Hebrew 1.5)

第34 曲 レチタティーヴォ・テノール

神はかつてどの御使いに対してこう言われたか。
「あなたは私の子、今日私があなたを生んだ。」
(ヘブル人への手紙 1.5)

No.35 Chorus

Let all the angels of God worship him.
(Hebrew 1.6)

第35 曲 合唱

神の御使いは皆彼を拝みなさい。
(ヘブル人への手紙 1.6)

No.36 Aria-Alto

Thou art gone up on high,
Thou hast led captivity captive,
and received gifts for men,
yea, even for thine enemies,
that the Lord God might dwell among them.
(Psalm 68.18)

*下線部 母音またはh音で始まる名詞の前では'thy'に変わって'thine'が用いられました。

No.37 Chorus

**The Lord gave the word;
great was the company of the preachers.**
(Psalm 68.11)

No.38 Aria-Soprano

How beautiful are the feet of them
that preach the gospel of peace,
and bring glad tidings of good things.
(Isaiah 52.7 or Roman 10.15)

No.39 Chorus

**Their sound is gone out into all lands,
and their words unto the ends of the world.**
(Psalm 19.4 or Roman 10.18)

No.40 Aria-Bass

Why do the nations so furiously rage together,
why do the people imagine a vain thing?
The kings of the earth rise up,
and the rulers take counsel together
against the Lord and against his Anointed.
(Psalm 2.1-2)

No.41 Chorus

**Let us break their bonds asunder,
and cast away their yokes from us.** (Psalm 2.3)

No.42 Recitativo-Tenor

He that dwelleth in heaven
shall laugh them to scorn,
the Lord shall have them in derision. (Psalm 2.4)

No.43 Aria-Tenor

Thou shalt break them with a rod of iron,
Thou shalt dash them in pieces
like a potter's vessel. (Psalm 2.9)

No.44 Chorus

**Hallelujah,
for the Lord God omnipotent reigneth.**
(Revelation 19.6)
**The kingdom of this world is become
the kingdom of our Lord and of his Christ,
and he shall reign for ever and ever.**
(Revelation 11.15)
KING OF KINGS, AND LORD OF LORDS.
(Revelation 19.16)

第36 曲 アリア・アルト

あなたはいと高き所に上り、
捕らわれたものを虜にし、
みつぎを人々からも、
敵対する者どもからさえも、受けられた。
神なる主がそこに住まわれるためである。
(詩篇 68.18)

第37 曲 合唱

主は御言葉を賜った。
おとずれを告げる者の群れは大いなるものである。
(詩篇 68.11)

第38 曲 アリア・ソプラノ

なんと美しきことよ、
平和を告げ、
良いことのおとずれを伝える人々の足は。
(イザヤ 52.7 またはローマ人への手紙 10.15)

第39 曲 合唱

その声は全地に響き渡り、
その言葉は地の果てまで届いた。
(詩篇 19.4 またはローマ人への手紙 10.18)

第40 曲 アリア・バス

なぜ国々は騒ぎ立ち、
国民はむなしいことを思うのか。
地の王たちは立ち構え、
治める者たちは相ともに集まり、
主と香油を注がれた者と共に逆らう。
(詩篇 2.1-2)

第41 曲 合唱

さあ彼等のかせを打ち砕き、
彼等の綱を解き捨てよう。(詩篇 2.3)

第42 曲 レチタティーヴォ・テノール

天の御座に着いておられる方は
彼等を笑われる。
主はその者どもをあざけられる。(詩篇 2.4)

第43 曲 アリア・テノール

あなたは鉄の杖で彼等を打ち砕き、
焼き物の器のように粉々にする。
(詩篇 2.9)

第44 曲 合唱

ハレルヤ、
全能にして神なる主の御支配に。
(黙示録 19.6)
この世の国は
私達の主およびそのキリストのものとなった。
主は永遠に支配なされる。
(黙示録 11.15)
王達の王、主らの主。
(黙示録 19.16)

*A=1, B=2, C=3...という数え方をすると BACH が 14(B=2,A=1,C=3,H=8,2+1+3+8=14) となることは有名ですが、この方法で HANDEL を計算すると44(H=8, A=1, N=14, D=4, E=5, L=12, 8+1+14+4+5+12=44) となります。しかしその後の調べで、ヘンデルはドイツ語ではHÄNDELとなり、これを数字に置き換えるには、ウムラウト付きの母音文字には1を加えるため、45 となる、即ち次のソプラノ・アリアの曲番号と一致することがわかりました。そう言えばロンドン：ウェストミンスター寺院内のヘンデルの墓に作られた彼の立像が持っている譜面は次の第45 曲です。

第3部 Part Three

第3部は救世主復活による死者の魂の蘇りを中心に、終曲では神と救世主への賛美が歌われます。

No.45 Aria-Soprano

I know that my redeemer liveth,
and that he shall stand
at the latter day upon the earth.
And though worms destroy this body,
yet in my flesh shall I see God. (Job 19.25-26)
For now is Christ risen from the dead,
the firstfruits of them that sleep.
(Corinthian-1 15.20)

第45 曲 アリア・ソプラノ

私は知っている。私を贖う方は生きておられ、
後の日に地の上に立たれる。

たとえうじ虫が私の肉体を食い尽くしても、
私は私の体から神を見る。(ヨブ 19.25-26)
今やキリストは死者の中から蘇られ、
眠ったものの初穂となられた。
(コリント人への第1の手紙 15.20)

*下線部 聖書では 'and after my skin has been thus destroyed' 「私の皮が、このようにはぎ取られて後」となっています。

No.46 Chorus

Since by man came death,
by man came also the resurrection of the dead.
For as in Adam all die,
even so in Christ shall all be made alive.
(Corinthian-1 15.21)

第46 曲 合唱

死がひとりの人を通して来たように、
死者の復活もひとりの人を通して来た。
すなわちアダムにあって全ての人が死ぬように、
キリストによって全ての人が生かされる。
(コリント人への第1の手紙 15.21-22)

No.47 Accompagnato-Bass

Behold, I tell you a mystery;
We shall not all sleep,
but we shall all be chang'd, In a moment,
in the twinkling of an eye, at the last trumpet.
(Corinthian-1 15.51-52)

第47 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス

見よ、私はあなた方に奥義を告げよう。
私達は皆が眠ってしまうのではなく、
皆、一瞬にして変えられるのである。
まばたきの間に、終りのラッパと共に。
(コリント人への第1の手紙 15.51-52)

No.48 Aria-Bass

The trumpet shall sound,
and the dead shall be raised incorruptible,
and we shall be changed.
For this corruptible must put on incorruption,
and this mortal must put on immortality.
(Corinthian-1 15.52-53)

第48 曲 アリア・バス

ラッパが鳴ると、
死者は朽ちないものに蘇り、
私達は変えられる。
朽ちるものは必ず朽ちないものを着ねばならず、
死ぬものは必ず不死を着ねばならないからだ。
(コリント人への第1の手紙 15.52-53)

No.49 Recitativo-Alto

Then shall be brought to pass the saying
that is written;
Death is swallow'd up in victory.
(Corinthian-1 15.54)

第49 曲 レチタティーヴォ・アルト

聖書に記されている次の御言葉が成就する。

「死は勝利に飲まれてしまった。」
(コリント人への第1の手紙 15.54)

No.50 Duet-Alto & Tenor

O death, where is thy sting.
O grave, where is thy victory?
The sting of death is sin,
and the strength of sin is the law.
(Corinthian-1 15.55-56)

第50 曲 デュエット・アルトとテノール

おお死よ、おまえのとげはどこにあるのか。
おお墓よ、おまえの勝利はどこにあるのか。
死のとげは罪であり、
罪の力は律法である。
(コリント人への第1の手紙 15.55-56)

No.51 Chorus

**But thanks be to God,
who giveth us the victory
through our Lord Jesus Christ.**
(Corinthian-1 15.57)

No.52 Aria-Soprano

If God be for us, who can be against us?
(Roman 8.31)
Who shall lay anything
to the charge of God's elect?
It is God that justifieth.
Who is he that condemneth?
It is Christ that died, yea rather,
that is risen again,
who is at the right hand of God,
who maketh intercession for us.
(Roman 8.33-34)

No.53 Chorus

Worthy is the Lamb that was slain,
(Revelation 5.12)
and hath redeemed us to God by his blood,
(Revelation 5.9)
**to receive power, and riches,
and wisdom, and strength,
and honour, and glory, and blessing.**
(Revelation 5.12)
**Blessing and honour, glory and pow'r,
be unto him
that sitteth upon the throne,
and unto the Lamb,
for ever and ever.** (Revelation 5.13)

Amen. (Revelation 5.14)

第51 曲 合唱

しかし神に感謝すべきである。
神は私達に勝利を与えてくださる。
私達の主イエス・キリストによって。
(コリント人への第1の手紙 15.57)

第52 曲 アリア・ソプラノ

神が私達の味方なら、誰が私達に敵対できよう
(ローマ人への手紙 8.31)
神に選ばれた人々を訴えるのは誰か。

神が義と認めてくださる。
罪に定めようとするのは誰か。
死んで、
蘇られたキリストが、
神の右の座に着き、
私達のためにとりなしてくさる。
(ローマ人への手紙 8.33-34)

第53 曲 合唱

ほふられた小羊は、
(黙示録 5.12)
その血にて神に対し私達を贖いたもうたゆえ、
(黙示録 5.9)
力と、富と、
知恵と、勢いと、
誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい。
(黙示録 5.12)
賛美と誉れと栄光と力が

御座にすわる方と小羊とに

永遠にありますように。(黙示録 5.13)

アーメン (黙示録 5.14)

参考文献：

①聖書(新改訳ー1970年版、日本聖書刊行会) 1955年の改訳版よりも、英語版の語順に近いものとなっています。本対訳の大部分はこれに準拠し、語順を英語の台本に更に近付けるべく工夫し、「メサイア」の台本に沿うべく修正を施しました。

②The Bible (Revised Standard Version, The British & Foreign Bible Society) 「メサイア」の台本の元になっている聖書のひとつーKing James Version 1611の改訳版です。

③CD「メサイア／トレヴァー・ピノック指揮 (Archiv POCA-2140/1)」の対訳：永田仁 聖書との相違をはじめ、台本の元になっているもうひとつの聖書ー Great Bible 1539からの引用の記述が克明です。

④CD「メサイア／J.E.ガーディナー指揮 (Philips PHCP-5060/1)」の対訳：佐藤章 聖書のままでない、C.ジェネンズの台本による「メサイア」の対訳として、編者の知る限り最も信頼できます。

※2025年1月の浜松バッハ研究会公演にあたり次の2点(注1、注2)を追記します。(編者)

注1. 参考文献①の「1955年の改訳版」を「口語訳版(1955年初版)」に修正します。

注2. 参考文献②の「King James Version 1611の改訳版」を「King James Version 1611を元に改訳や修正を重ねたもの」に修正します。

浜松バッハ研究会 創立40周年記念演奏会に寄せて

浜松バッハ研究会顧問 河野 周平

今から40年前1985年はバロックの巨匠、バッハとヘンデルの生誕300周年の記念すべき年でした。この二人はドイツ北東部のアイゼナハとハッレという、わずか130kmしか離れていない場所で、しかも同月生まれ（現在のグレゴリウス暦で3月31日と3月5日）という歴史的ニアミスをしたにもかかわらず、生涯出会うことはありませんでした。

私は1979年から5年間ドイツに駐在し、ハンブルク大学のユルゲン・ユルゲンス教授のもと、モンテヴェルディ合唱団で歌っておりました。1984年に帰国しましたが、かつて設立に関わった浜松の合唱団は解散していました。1985年というバッハ・ヘンデルの記念イヤーを何もせず過ごしてしまうことに耐えられず、かつての仲間たちに声をかけ、急ごしらえの合唱団と管弦楽団でバッハの「クリスマス・オラトリオ」の1部から3部を、浜松初演したのが浜松バッハ研究会の始まりでした。その時のチラシのコピーと出演者を下に掲載します。

それから40年の歳月が流れたわけですが、1990年に三澤洋史先生という素晴らしい指導者との出会いがあり、今日のバッハ研究会の礎が築かれました。また、設立当初よりコンサートマスターとして管弦楽団を導いていただいた故北川靖子先生、そしてリーダーであった故木村英道さんの存在も忘れることはできません。豊橋の姉妹団体を育て上げていただいた故青木繁光さんの功績も特筆に値します。私が再度欧州に駐在した1991年から2002年の間、代表としてバッハ研究会をまとめ上げ、さらに発展させた早川徳次さん・美香さん夫妻の貢献は多大なものでした。

2000年から2001年の世紀の変わり目に実施したドイツ演奏旅行はバッハ研究会にとって過去最大の成果であり、特に大バッハが長年カントールを務めたライプツィヒの聖トーマス教会での、新年モテット礼拝に、教会合唱団に代わってわれわれがカンタータを演奏したことは生涯忘れられぬ栄誉でありました。

バッハ研究会も世代交代を図っており、これから創立50周年に向けて皆で力を合わせながら一層の精進をしていきますので、どうぞ皆様末永くご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後に、私とともに合唱団の運営に永年心を尽くしてくれた妻・善子に対し、この場を借りて謝意を表します。

J.S.Bach生誕300年記念公演 クリスマス オラトリオ Weihnachtsoratorium BWV 248(第1部～第3部)  独 唱 山本 智子・酒井 美知江・座光寺 哲・渡部 成哉 合 唱 浜松バッハ祝祭合唱団・管弦楽団 指揮 河野 周平 北川 靖子(前・ハンブルグ交響楽団・首席奏者) 1985年12月26日(木) 19時開演 遠州栄光教会(住吉・せいれい病院西) 入場料 一般1500円 学生1000円 主催：浜松バッハ祝祭合唱団・管弦楽団(問い合わせ先 05358-6-5584 河野) チケットのお求めは 日本楽器 浜松店 3F 楽譜売場へ	指 揮： 河野周平 独 唱： ソプラノ：山本智子、アルト：酒井美知江 テノール：座光寺哲、バ ス：渡部成哉 バイオリン：北川靖子 チェロ：伊藤耕司 オルガン：日向めぐみ 合 唱： 浜松バッハ祝祭合唱団 合 奏： 浜松バッハ祝祭管弦楽団 [合 唱] ソプラノ：井浦芙蓉子、今村陽子、加藤智子、河野博子、 河野真剛、夏目実花、山口厚子、山本智子 アルト： 河野善子、國井みさえ、酒井美知江、沢木紳江、鈴木法子 鈴木理恵、西川尚子、丸山みな子、宮本芳美、山本政子 テノール：新井治男、加藤充美、河野周平、座光寺哲 早川徳次、藤本正也 バ ス： 生駒修治、伊藤以知郎、小貫勇作、児玉久司、名倉英治 [合 奏] 第一バイオリン：北川靖子、木村英道、多田陽子、吉田 魏 第二バイオリン：釘本英範、垣東秀夫、浅田圭樹、末田 良 ビオラ： 吉川紀彦、田原 傑、花尾四郎 チェロ： 伊藤耕司、杉浦敏彦、清水 寧 コントラバス： 小林 哲、曾根圭司 フルート： 木村伊都子、川向博史 オーボエ： 清水恵二、伊藤充信、徳永隆二、西山 明 ファゴット： 斉藤善彦 トランペット： 今岡弘明、片山信次、北村和彦 ティンパニ： 西原 徹
--	---

豊橋バッハ迷走曲

豊橋バッハアンサンブル代表 安井 研一

私は指導者でもなんでもないので、団の設立当時の関係者は全て退団または逝去されており、1995年の「ニューイヤーコンサート」と翌年の「マタイ受難曲」に出演した数少ない現役の団員の一人として、個人的な、全くの偶然の連続による入団のいきさつから書かせていただきます。

我が家の近くの「アイブラザ」でハンガリーの少女合唱団の公演があり、親子3人で聴きに行ったのが最初のきっかけです。そこに賛助出演していた「豊橋少年少女合唱団」を初めて聴き、当時小学校5年生だった娘が希望して入団しました。同じ指導者田邊秀治先生(故人)の男声合唱団「ふんけんクラブ」に私も入団し、秋の豊橋市の合唱祭に出演しました。そのパンフレットに「マタイ受難曲と一緒に歌いませんか?」という1コマの団員募集を見つけたのは、私ではなく妻でした。

しかし、なにしろステレオLP3枚組の大曲です。代表の小林さんに電話してみると、「入団テストはありません。入りたい人は誰でもOKです。」という温かいお言葉だったので、出かけていくと、会場では指導者の青木繁光氏(故人)のもと、10人足らずの人が細々と練習しておられました。

それにしても、そこらの合唱曲とはわけが違います。2組の混声合唱が、「見よ!」「誰を?」と呼び交わす上を、賛美歌(コラール)が天使の如く流れていく壮大なスケールに圧倒され、「十字架につけろ!」とバス1とバス2が速いテンポのフーガを展開するあたりでは目を白黒させるばかりでした。練習では、1バスまたは2バスを一人で歌うとか、相方がいない日は1人で両方歌うなんてこともありました。まあ、苦勞のかいあって、1996年2月の「マタイ受難曲」全曲コンサートの舞台に(出来はともかく)立つことができました。さらにこれに懲りずに、翌年にはモーツァルトの「レクイエム」など、2000年には「口短調ミサ」、年末から翌年にかけてのドイツへ演奏旅行と続き、いよいよ深みに嵌っていきました。

これ以後、バッハの「ヨハネ受難曲」、「クリスマス・オラトリオ」第1~3部、ヘンデルの「メサイア」そしてカンタータやモテットなどを歌いました。

バッハをジャズにアレンジして歌うグループ、スィングル・シンガーズの「ジャズ・セバスチャン・バッハ」というアルバムの中の一曲を歌った時のことです。「Jesus」という歌詞を、みんなは「イエーズス」と発音したので、「エッ」と思ったら三澤先生が、「ここの歌詞は英語だからジーザスと発音して下さい。」と言われ、皆さんから「エーッ、歌いにくい!」と声が上がったのには驚きました。この綴りを見て「ジーザス」ではなく、自然に「イエーズス」と発音してしまう人々がいるんですね!

全然知らなかった知識も増えました。例えば、「メサイア」は英語ですが、17世紀にギリシア語原典から英訳された「^{きんてい}欽定訳」を使っています。17番では「天には神に栄光あれ。地には平和あれ。人々には善意あれ。(または神の恵みあれ)」と3つの文に分かれており、ヘンデルの曲もはっきりと3つに分けて歌われますが、これに対して他の、ラテン語及びそれから訳された聖書では、「天には神に栄光あれ。地には御心にかなう人々に平和あれ。」(ルカ 2:14)と2つの文になっています。(使われたギリシア語原典の文字のわずかな違いから起きた相違のようです。)というように、こういう合唱の世界に足を踏み入れなければ、死ぬまで知るはずのないようなことも知りました。

などなど、驚きの連続でしたが、いつの間にか35年が過ぎました。我ながらよく続いたもんです。40代だった私も喜寿となり、小学5年だった娘は2児の母となりました。「私がやれるうちは合唱団も続く」と先生は言われましたが、そろそろ古希を迎えられるそうです。私も自分はいつまで歌えるのかなぁと考えますが、バッハは何年歌っても飽きることはありません。元気で歌が歌える間は歌い続けたいと考えています。

演奏活動年譜(主要コンサートのみ)

上演日	上演曲目	指揮者	独唱者/独奏者/協演団体 合奏:浜松バッハ研究会管弦楽団	上演会場
1985/12/26	J.S.Bach 生誕300年記念演奏会 バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部 浜松バッハ祝祭合唱団・管弦楽団として演奏	河野周平	山本智子 / 酒井美知江 座光寺哲 / 渡部成哉	遠州栄光教会
1986/12/22	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	坂野多巳予 / 酒井美知江 西垣俊朗 / 渡部成哉	遠州栄光教会
1988/3/21	バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	西垣俊朗 / 渡部成哉 / 石津真理子 佐藤安子 / 座光寺哲 / 平野満彦 浜北少年少女合唱団・内野台キンダーコア	福祉文化会館
1988/12/26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部	河野周平	高田晴代 / 佐藤安子 座光寺哲 / 高井 治	遠州栄光教会
1990/10/7	創立5周年記念コンサート バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	蒲原史子 / 寺尾美穂 / 佐藤安子 西垣俊朗 / 牧野正人	福祉文化会館
1990/12/16	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	佐地多美 / 寺尾美穂 木下基樹 / 高井 治	遠州栄光教会
1992/3/22	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	木下基樹 / 鈴木 徹 / クラウス・オッカー 山田美津子 / 佐藤安子	福祉文化会館
1993/3/21	ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	山田美津子 / 佐藤安子 西垣俊朗 / クラウス・オッカー	福祉文化会館
1994/6/12	「無伴奏合唱への誘い」 W.バード「4声のミサ」 J. S. バッハ「モテット BWV225 & 229」	三澤洋史	合唱のみ	遠州栄光教会
1995/1/22	「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他 第1部・ヴィクトリアとシュッツのモテット 第2部・J. S. バッハのモテットBWV225 第3部・合唱によるJ. S. バッハの名曲 第4部・J. S. バッハの教会カンタータより	三澤洋史	合唱のみ	遠州栄光教会
1996/2/18	創立10周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」全曲	三澤洋史	頃安利秀 / 渡部成哉 / 山田美津子 佐藤安子 / 小田 薫 / 長谷川顯 浜松ライオネット児童合唱団	アクト中ホール
1997/2/16	バッハ「マニフィカート」 モーツァルト「レクイエム(バイヤー版)」	三澤洋史	田村麻子 / 小田 薫 西垣俊朗 / 長谷川顯	アクト中ホール
1998/4/5	バッハ BWV227、BWV106、BWV131他	三澤洋史	小田 薫 / 西垣俊朗 / 長谷川顯	福祉文化会館
2000/2/13	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	藤崎美苗 / 永島陽子 西垣俊朗 / 長谷川顯	アクト中ホール
2000/12/29- 2001/1/8	《ドイツ演奏旅行》	三澤洋史	藤崎美苗 / 山下牧子 望月哲也 / 初鹿野剛	
2000/12/31	ドルンハイム バルトロメ教会(バッハが結婚式を挙げた教会)		モテット6番奉納演奏	
	アルンシュタット バッハ教会(バッハが最初に職を得た教会)		ジルベスタ・コンサート出演 モテット6番 BWV171	
2001/1/1	アイゼナハ ゲオルグ教会(バッハが洗礼を受けた教会)		新年礼拝にてクリスマスオラトリオ4部の一部を演奏	
2001/1/2	エアフルト シャウシュピールハウス(バッハ一族の本拠地)		「口短調ミサ曲」演奏会開催	
2001/1/3	ナウムブルグ ヴェンツェル教会(バッハが理想とするオルガンが現存)		モテット6番奉納演奏	
2000/1/4	ハレ マルクト教会(ヘンデルが学び、バッハの息子が活躍)		「口短調ミサ曲」演奏会開催	
2000/1/5	ライプツィヒ 聖トーマス教会(バッハが晩年の27年を過ごした聖地)		木曜日のモテットミサ演奏担当 モテット6番、BWV171	
2000/1/6	ライプツィヒ 聖トーマス教会(バッハが晩年の27年を過ごした聖地)		金曜日のモテットミサ演奏担当 モテット6番、BWV65	
2001/4/22	バッハ「復活祭オラトリオ」BWV249 カンタータ BWV80、モテットBWV228 & 230	三澤洋史	藤崎美苗 / 永島陽子 西垣俊朗 / 初鹿野剛	アクト中ホール
2003/2/23	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	西垣俊朗 / 小原浄二 藤崎美苗 / 永島陽子 / 初鹿野剛	アクト中ホール
2005/9/25	創立20周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」	三澤洋史	植木紀夫 / 長谷川顯 / 藤崎美苗 / 永島陽子 初鹿野剛 / 浜松少年少女合唱団	アクト中ホール
2006/12/23	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	大谷知佳子 / 朴 瑛実 西垣俊朗 / 西垣俊紘	カトリック浜松教会
2007/11/10	「とつともバッハな午後をあなたに」 バッハ [カンタータ140、147 ミサ曲A-Dur]	三澤洋史	飯田みち代 / 渡部菜津美 神田豊尋 / 塩入功司	福祉交流センターホール
2010/1/17	創立25周年記念コンサートNo.1 ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	國光ともこ / 三輪陽子 大槻孝志 / 初鹿野剛	アクト中ホール
2010/12/23	創立25周年記念コンサートNo.2 バッハ [マニフィカート Es-Dur] 他	三澤洋史	大谷知佳子 / 三輪陽子 西垣俊朗 / 河野真剛	カトリック浜松教会
2012/10/20	浜松のバッハ40年記念 バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	國光ともこ / 三輪陽子 畑 儀文 / 初鹿野剛	アクト中ホール
2015/4/19	創立30周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」	三澤洋史	畑 儀文 / 大森いちえい / 國光ともこ / 三輪陽子 / 塩入功司 / 浜松少年少女合唱団	アクト中ホール
2017/6/18	「J.S.バッハの系譜」-Ⅰ ハイドンとモーツァルト バッハ「モテット1番」/ハイドン「テ・デウム C-DurⅡ」 モーツァルト「レクイエム」	三澤洋史	飯田みち代 / 森 季子 大久保亮 / 能勢健司	アクト中ホール
2019/4/7	「J.S.バッハの系譜」-Ⅱ ベートーヴェン バッハ「カンタータ182番」/「モテット2番」 ベートーヴェン「ミサ曲ハ長調」	三澤洋史	飯田みち代 / 三輪陽子 寺田宗永 / 大森いちえい	アクト中ホール
2023/4/22	浜松と豊橋でのバッハ演奏50周年記念 バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	國光ともこ / 三輪陽子 大久保亮 / 大森いちえい	アクト中ホール



2001年1月6日、世紀の変わり目に実施したドイツ演奏旅行中のライプツィヒでの模様。まさに大バッハが礼拝演奏を繰り広げていた聖トーマス教会の聖歌隊席で、新年のカンタータを演奏した時の写真。当時のトーマス教会カントールであるビラー氏やヴォルフ牧師から祝福を受ける三澤洋史率いる浜松バッハ研究会合唱団と管弦楽団。

演奏曲：J.S. Bach ・カンタータ 66 番、171 番 ・モテット 6 番 BWV230

指揮：三澤 洋史

独 唱：藤崎 美苗 / 山下 牧子 / 望月 哲也 / 初鹿野 剛

合 唱：浜松バッハ研究会合唱団 / 豊橋バッハアンサンブル

管弦楽：浜松バッハ研究会管弦楽団、 コンサートマスター：北川 靖子

合唱団メンバー募集

本日の私たちの演奏はいかがでしたか？
 バッハは非常に難解だと思われるかもしれませんが、実際に歌ってみると、とても自然で親しみやすい音楽です。あなたも一緒に歌ってみませんか？
 合唱経験の有無は問いません。ご家族での参加、遠隔地からの参加も歓迎します。

2025～27年 練習予定曲目

J.S.バッハ 「ヨハネ受難曲」 他

浜松バッハ研究会

練習日：第2・第4日曜日 14:00～16:30

会 場：浜松市 積志協働センター 他

会 費：月額 2,000 円

連絡先：河野 周平 ☎053-585-3364

豊橋バッハアンサンブル

練習日：毎週金曜日 20:00～22:00

会 場：豊橋市 新川小学校 音楽室 他

会 費：月額 1,500 円

連絡先：安井 研一 ☎0532-47-0676(留守電設定)

<http://hamamatsu-bach.sakura.ne.jp/>

G. F. Handel
The Messiah